

今週のメニュー

■トピックス1

◇第24回総会 会長挨拶

塩ビ工業・環境協会 会長 齊藤 恭彦

■トピックス2

◇就任ご挨拶

塩ビ工業・環境協会 専務理事 柳澤 伸治

■トピックス1

◇第24回総会 会長挨拶

塩ビ工業・環境協会 会長 齊藤 恭彦

「塩ビ工業・環境協会」会長の齊藤恭彦でございます。平素より塩ビ工業・環境協会の活動へのご理解とご支援をいただき厚く御礼申し上げます。会長として二年目を迎えるにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

2020年度は新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年でした。特に第一四半期は、私も塩ビ業界も深刻なダメージを懸念せざるを得ない状況でしたが、第二四半期以降、米国やインド等における需要は顕著な回復を見せており、今後も引き続き旺盛な需要が期待できる状況となっております。また、このコロナ禍において、フィルムやシート、間仕切り板といった飛沫感染防止対策用品や、医療用手袋、抗ウイルス製品等、衛生関連用品の分野でも各種塩ビ製品がかつてない活況を呈しており、塩ビが感染防止に貢献できています事を嬉しく思います。

2021年度は、地球温暖化問題や循環経済化等、環境問題全般への対応がますます重要になります。欧米の環境重視政策はもとより、わが国でも、「2050年カーボンニュートラル実現」他、チャレンジングな目標を達成するための動きが今後ますます本格化してきます。プラスチック関連では、「プラスチック資源循環戦略」の野心的な目標設定、2021年度内にも想定される関連新法の整備等を受け、塩ビはもとよりプラスチック業界全体で真剣に対処していかねばならないと考えています。

当協会は、塩化ビニルに関する正しい理解を広く普及し、塩化ビニル工業の健全な発展に寄与するという使命を果たすことでこれらの課題に対応してまいります。特に、建材関連塩ビ製品の持つ長寿命性や優れた断熱・遮熱性能、省エネルギー性能が地球温暖化問題の解決に貢献し得ることや、塩ビパイプ、農業用フィルム、床材などのインフラ系資材分野で優れたマテリアルリサイクル実績をあげており、塩ビが循環経済化やSDGsの観点からも非常に優れた素材であることなどを、これまで以上に広くアピールしてまいります。加えて、2年ぶりに「PVCアワード2021」表彰事業を開催し、「生活を豊かにするPVC製品」をテーマに、様々な社会要請に応える塩ビ製品を積極的に発信します。

また、塩ビや添加剤等に対する国内外での規制強化の動きに関して、各国の塩ビ関連業

界団体と共に情報の収集や分析に努め、塩ビや塩ビ製品等に対する不当な規制や忌避の動きを阻止すべく必要な措置を講じて、グローバルな塩ビ産業振興活動を推進してまいります。

今後も塩ビ工業のより一層の発展に向け、関係省庁や関係団体ほかの皆さまにもご指導を仰ぎながら、会員の皆さまと共に歩んでまいりたいと存じます。会員の皆さまには、なお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆さまのご健勝とご清栄をお祈りいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

2021年5月18日

齊藤 恭彦

■トピックス2

◇就任ご挨拶

塩ビ工業・環境協会 専務理事 柳澤 伸治

本年5月18日付けで進藤前専務理事の後任として就任することになりました柳澤伸治と申します。今後ともよろしく願いいたします。

さて、私は大学卒業後、通商産業省（当時；2001年から経済産業省）、日本—サウディアラビア間のナショナルプロジェクトの日本側推進機関であるサウディ石油化学㈱に勤務後、今回、当協会にお世話になることになりました。

経済産業省では、2003年に製造産業局化学兵器・麻薬原料等規制対策室長（以下「化兵室長」といいます。）及び化学物質リスク評価室長（以下「リスク評価室長」といいます。）の両室長を拝命しました。

化兵室長としては、「化学兵器の禁止及び特定物質の規制等に関する法律」に基づき、サリン等の化学兵器に供されるおそれの極めて高い化学物質、化学兵器にも民生用にも供される化学物質及びこれらの化学物質を製造する過程で用いられる有機化学物質等を製造、使用する者に対して許可、届出等の規制を行っていましたが、日々大量の決裁文書が回ってきて内容を確認しなければならなかったのは大変苦労しました。また、法律が適切に執行されているのか確認するために、規制対象の事業者のうち定期的に年間数社に対して立ち入り検査を行ったり、化学兵器禁止機関が国内の事業者に対して国際検査を実施する場合には同行するなどしていました。日本の事業者は関連資料を完璧に保管・整備し、又国際検査官からの質問にも的確に回答するなど化学兵器禁止機関から極めて高い評価を受けていたと記憶しています。

リスク評価室長としては、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」に基づきPRTR制度やSDS制度を担当していました。特にPRTR制度については毎年膨大な届出データ等を集計し、その結果を対外的に公表していましたので、データ分析・検討には十分時間をかけました。私が在籍していたところに比べると現在、

両制度の対象化学物質は増えておりますが、これも化学物質管理に対する国際的な重要性の高まりと国内での制度の認知度が上昇したことが大きな要因ではないかと考えています。

サウディ石油化学(株)では、同社とサウディ基礎産業公社（SABIC）の 50:50 の合弁企業である SHARQ（シャルク：アラビア語で東方を意味します。）の取締役として年間 2-3 回取締役会出席等のため同国を訪問していました。SHARQ はエチレン 240 万トン、ポリエチレン 160 万トン、エチレングリコール 155 万トンと世界最大級の年間生産能力を有しており、最寄りの国際空港であるダンマン空港から車で約 2 時間、砂漠の中を走行したところにあります。サウディアラビアの石油化学メーカーが現在直面している重要な課題の 1 つとして地球環境問題への対応が挙げられます。二酸化炭素の排出抑制のためにサウディアラビア政府と排出権取引の契約を締結し、一定期間内に目標値に達成しないとペナルティーが課されるしくみを導入しています。これは、2020 年の G20 でサウディアラビアが議長国となり、同国主導で循環型炭素経済の構築を提唱したことを踏まえてのことだと思います。私は通商産業省在籍時に外務省に出向し、在サウディアラビア日本国大使館に勤務していたことがあります（1993 年～1996 年）、当時、サウディアラビア政府及び産業界とも地球環境問題に対してほとんど関心を示していなかったのが隔世の感があります。

VEC は塩化ビニル工業に関する環境、安全に係わる国内外の諸問題等について長年、取り組んでおりますが、上述した通商産業省・経済産業省での化学物質管理に関する行政の経験や中東での石油化学メーカーの経営の知見を活かして関係諸団体の皆様とも協力しながら長寿命で環境にも優しい塩ビの特長を科学的根拠とともに積極的に訴えていきたいと考えております。さらには、製品や製造工程等に関する懸念を払しょくし、リサイクルの促進により塩ビ製品の環境性能をアピールしていきたいと思っております。こうした活動を通じて塩ビ樹脂・製品の需要拡大に少しでも貢献していければ幸いです。

昨年から続く新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延の中で会員を始めとした産業界の皆さまにおかれましては大変厳しい状況に直面していると理解しております。さらに海洋プラスチック問題や 2050 年カーボンニュートラルの実現など環境問題への対応が年々重要性を増してきております。こうした中ではありますが塩ビ業界の発展のために適切かつ積極的な情報発信等に努めて参りたいと考えておりますので今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。

